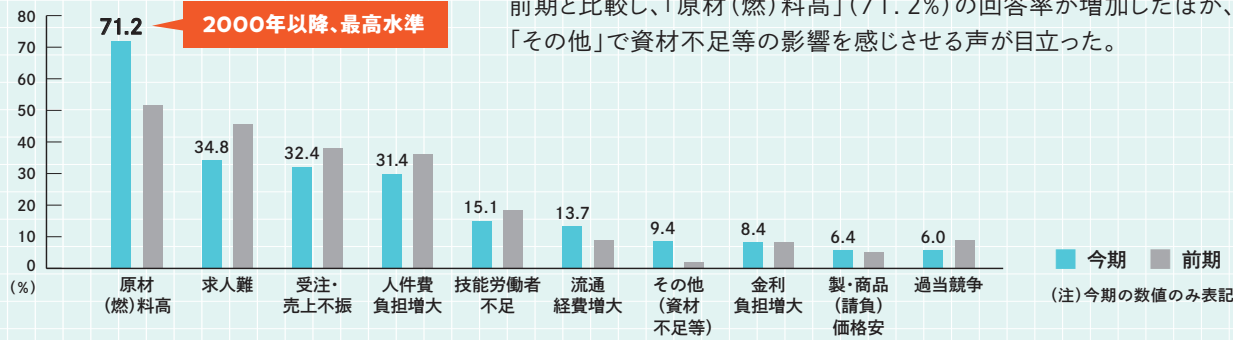


3 当面の経営上の問題点

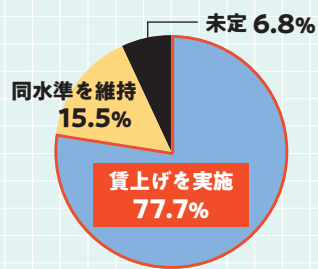


4 附帯調査 —ピックアップポイント—

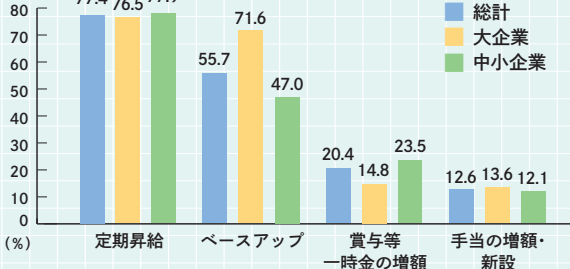
賃金動向について

7割近い企業が「現在の賃金水準が負担」と回答
賃上げの目的は、「社員の定着」「人材確保」が中心で「業績改善」によるものは限定的
賃上げ率3%以上は前回調査より減少し、賃上げは限界局面に

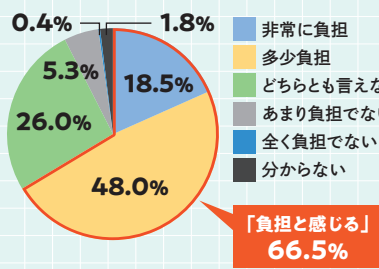
1 今年度の賃金について



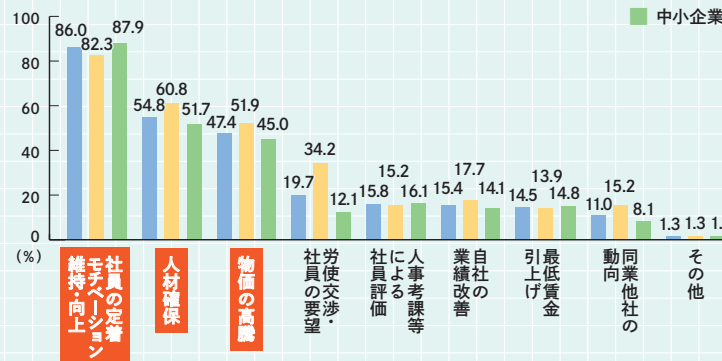
2 賃上げの内容について



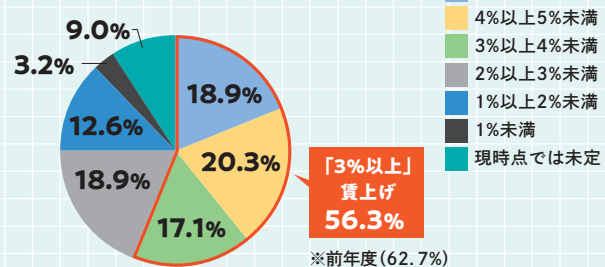
3 現在の賃金水準に関する負担感



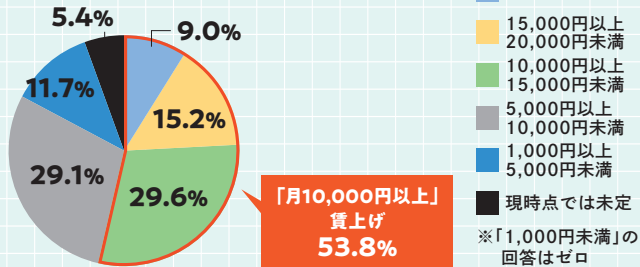
4 賃上げを行う要因・目的



6 今年度の賃上げ率



7 一人あたりの月平均賃上げ額



京都企業のBSI値: 5月中旬から5月下旬にかけて同調査を実施し、493社中299社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店等を持つ企業)。

【お問い合わせ】 企画広報部 ☎075-341-9750

調査結果概要は京都商工会議所ホームページからダウンロードできます。

京都商工会議所 BSI値 検索

1 概要

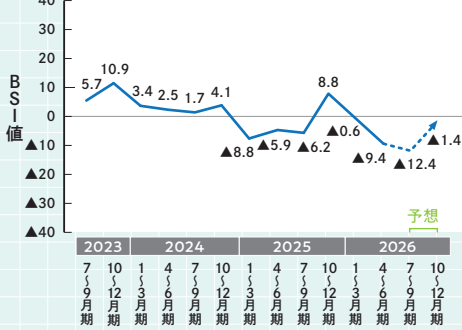
今期の国内景気BSI値は▲9.4(前期実績▲0.6)と大幅に下降した。中東情勢の悪化等、地政学リスクの高まりを背景に、経済への影響懸念が一段と強まり、前回予測(6.4)を大幅に下回り、ほとんどの業種で閉塞感が広まった。

今後の予想については、7～9月期は▲12.4と引き続き下降基調が見込まれる。続く10～12月期はマイナス圏であるものの年末の需要期にあたることから▲1.4と持ち直しが見込まれる。

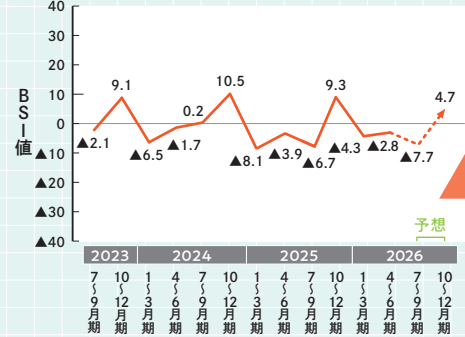
国内景気BSI値 (前期実績 ▲0.6)

▲9.4

国内景気動向の推移(BSI値)



自社業況(総合判断)の推移(BSI値)



▲2.8

自社業況BSI値 (前期実績 ▲4.3)

今期の自社業況BSI値は▲2.8(前期実績▲4.3)とややマイナス幅が縮小したものの、下降が続いている。

資材・原材料の目詰まりが各業種で顕在化し、原材(燃)料価格も再び上昇傾向にあることから、先行きに対する不透明感が一段と強まっている。今後の予想については、7～9月期は▲7.7とマイナス幅が拡大するものの、10～12月期には大企業、中小企業ともにプラスに転じる見込み。

2 BSI値の総括表

(注) 4～6月期のBSI値は、2026年1～3月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

		実績		予想	
		2026年1～3月期	2026年4～6月期	2026年7～9月期	2026年10～12月期
京都企業の経営動向	国内景気動向	▲0.6	▲9.4	▲12.4	▲1.4
	自社業況(総合判断)	▲4.3	▲2.8	▲7.7	4.7
	1. 生産・売上高、工事施工高	▲6.0	▲3.4	▲6.7	7.2
	2. 製・商品・サービス・請負価格	8.6	18.5	15.1	16.2
	3. 経常利益	▲7.3	▲7.2	▲9.5	2.6
	4. 所定外労働時間	▲1.9	▲3.7	▲2.1	5.5
	5. 製・商品在庫	6.8	4.4	3.4	1.9
京都企業の経営動向	6. 資金繰り	▲4.5	▲2.4	▲4.6	▲0.9

(注) BSI値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

実績

国内景気

地政学リスクの不安感が強まり、経済への影響懸念から、大幅に下降

自社業況

資材不足や原材(燃)料価格の高騰の影響により、多くの業種でマイナス圏が続く

2026
4-6月期



京都企業の

BSI値

Business survey index

原材(燃)料高を経営課題とする企業が2000年以来で最高水準
中東情勢の影響から国内景気・自社業況ともに下降が続く

予想

国内景気

7～9月期は下降基調が続くものの、10～12月期は年末の需要期で持ち直す見通し

自社業況

7～9月期は厳しい見通しが続くものの、10～12月期は上昇に転じる見込み

規模別の業況

自社業況は7～9月期に大企業で回復に転じるが、中小企業はマイナス幅が拡大し、明暗が分かれる見込み
続く10～12月期は大企業・中小企業とも回復を見込む